

SUMMARY

No013120

今週の最初のレポートで以下のことを掲げました。

ナンバーオペレーションは自然科学の基礎である数学の世界を背景にした事業です。それは Virtual Reality(「仮想現実」)であり「もう一つの現実」です。

ナンバーオペレーションは知れば知るほど面白さ(興味深さ)が増します。思考の世界はそれほど奥が深いのです。いい意味でもっともっとハマっていただければと思います。

「方法論を支えているのは理論的背景です。理論的背景は十分に理解されているという前提に立って進んでいきます。」

ナンバーオペレーションの“理論”は数字に反映されています。

すべて数字に“manifest”(「マニフェスト」:はっきりとあらわれている様)されているのです。

過去を遡ると、長い時間をかけてマトリックスの“からくり”(数学的原理)について理解を掘り下げそれを実践に利用する方法を紹介し解説してきました。次のステージはマトリックスとバリューチェーンの関係を理解しそれを実践に利用するナンバーオペレーションにおける一段水準の高いより本格的な(英語では“full-fledged”と言います。)世界です。バリューチェーンに含まれている数字はマトリックスと比べて圧倒的に多です。C、P、S、[01]、[02]、……[12]といった記号に加えて10~25のS値、それぞれのS値に対応するCとPの値を全て合わせると少なくとも192個の数字があります。それらを選択的に組み合わせることで事業目的を遂げるのがナンバーオペレーションです。

以下は今週号のポイントです:

「幾何学とナンバーオペレーション:実践への応用」

How To See TRIANGLE and Harness It

トライアングルは「正常な型」を描いています。数値と一緒にトライアングルを見る必要があります。

実践においてはハンドテーブルを利用します。

私のチームはハンドテーブルなしにもはやオペレーションやハンド操作を実行することができません。それほどハンドテーブルに頼っています。

ハンドテーブルを利用するにはトライアングルと“融合”させる必要があります。

ハンドテーブルの上に薄く鉛筆でトライアングルを描いてみましょう。さらに、左側にY軸のラインを縦に引いてVIXF1~VIXF6の数値を記します。そして、次に、テーブルに下にX軸のラインをよこに引いてみましょう。保有しているハンドがマトリックスの数値構造の中で生きているのが実感できると思います。

私たちが普通に「現実」と呼んでいる
 「現実」も「仮想現実」の同じ「現実」で、後者の
 思考が作る世界です。

 「方法論を支えているのは理論的背景です。理論的背景は十分に理解されているという前提に立って進んでいきます。」

数字は単独で見ない
 こと、この「構造」の意味
 込めたい。

組み合わせ
 には無限大に
 あります。

↑
 現在皆取りに取り組んでいた
 ているのがこれです。

 HANOTABLE(うまく利用に
 下し、これもいろいろ
 の1つです)